

2019年度 「年度末学校関係者評価」(外部評価)

	項目 (重点としたものに○)	学校の目標達成状況及び学校の取組の適切さ、改善方策について等の意見(外部評価者からの指摘を基に記載)
教育環境の 充実	①学校安全の推進	経年劣化や台風被害があったが、安全面に配慮しながら取り組めた。予算がなく修繕など行き届かないこともありB評価とした。学校からの発信が少ないというアンケートもあった。学校の実情をもっと発信したらどうか。今の学校教育を理解していないのではないか。学校教育総合プランの評価をみた委員からは評価が厳しい。色々な意見があり驚いた。厳しい意見があるが、親と教員の交流もあり、楽しく良い3年間でした、という意見を頂いた。
	②教育情報化の推進	
	③地域との協働推進	
	④学校評価を生かした学校づくり	
I 学習指導の 充実	①授業改善の推進	新学習指導要領改訂にむけて取り組んでいる。市委託の研究発表を行い授業改善に取り組んでいるが、十分でない教員もいる。評価委員からはC評価がないことはすばらしい。計算式がちがうのではないかという意見があった。9月から産休での代替え教員が見つからないという苦労があった。また、休職での代替え授業も、担当者の負担が多くなったが、所属の教員でフォローできていた。生徒・保護者のアンケートを分析し、学力問題を重要視していく。本校の今日的な課題とし、今後共、授業改善・向上に向けて取り組んでいきたい。
	②健康体力づくりの推進	
	③体験活動の充実	
	④今日的課題への取組	
II 支援の充実	①支援環境の充実	居場所作りはS評価をつけた。委員よりSの評価は素晴らしいという意見を頂いた。現在、50日以上欠席の不登校も増えていない。今後の課題として困り感のある生徒に対して満足か不安であり課題が残る。朝の打ち合わせや職員会議において生徒の情報共有を密にした。しかし、個々の生徒に応じた支援を考え取り組んできたが、多様な生徒の実態とその変化に対応できる体制は十分に取れていなかった。問題行動に対して、生徒が落ち着いているから、安心してしまいがちになるので、逆に意識を引き締めて取り組みたい。
	②安心できる居場所づくりと絆づくりの推進	
	③問題行動対策・不登校対策の推進	
	④幼・保・小及び小・中の連携推進	
III 学校組織の 充実	①学校・学年・学級経営の充実	新人教員が多く複数体制で取り組むようにし、協働体制で取り組んだ。信頼される学校づくりには評価が厳しかった。もっと発信し理解を得たらどうかとの意見もあり。今後も言葉遣いに留意し、生徒・保護者の心に寄り添い、個別の対応が必要な所はさらに全体的な見通しをもった組織的な対応をし、信頼を得ていきたい。部活動に対しては、今日の働き方改革で救われた教員もいる。今後も小規模校のため、教職員の負担や健康面を配慮した学校運営を進める必要があると報告した。常に危機管理意識をもって取り組みたい。
	②研究・研修の充実	
	③信頼に基づいた指導の推進	
	④働き方改革の推進	